

東京民医連

東北地方太平洋沖地震 支援ニュース

2011年3月12日

No.4

発行：東京民医連事務局

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：

soumu@tokyominiren.gr.jp

立川相互病院・リップルから支援出発

12日の19時頃、立川相互病院から医療支援チームが出発しました。計9名（医師3、看護師3、事務3）のチームに加え、奨学生合宿のため宮城を離れていた佐藤医師が合流し、車3台で現地へ向かったとのこと。警視庁と粘り強く交渉し、緊急車両の証明書を発行させての出発です。

また、同じく12日夜には備蓄食糧12800食を積みこんだリップルからの支援車も出発しています。

今後は、13日に東都協議会グループと東葛病院から、14日には大田病院と東京民医連から、それぞれ現地支援に向かう予定です。さらに現地からの情報と要請を待ちつつ、複数の事業所で支援の準備をすすめています。

◇共同事業所が支援で力を発揮◇

協立医師協 …ヨウ化カリウムの確保などで尽力

現在、協立医師協ではヨウ化カリウムの確保に全力を挙げています。次週15000錠入荷しさらに追加購入にむけた交渉を行っています。

今回の大地震で大手医薬品問屋の流通センターが被災し、医薬品供給に影響が出ています。協立医師協は、透析患者など被災県連からの患者受入を行っている加盟事業所の薬品供給に支障がないよう、他問屋からの振替購入も行いなど奔走しています。要請があればただちに供給できるようにマスク、手袋、消毒液などの備蓄も進めています。麻酔薬などの確保にも現場と協力しながら力を入れています。

リップル …宮城のセントラルキッチンを支援

宮城の大地震は坂病院や長町病院など医療機関だけではなく、給食供給センターであるセントラルキッチンが、停電などの影響で食事の供給が困難になり、支援要請が出されました。リップルはこうした時のために準備していた備蓄品を6日分手配し、その後直ちに増産体制に入りました。支援要請から数時間で体制を整え12日夜には第一弾の12800食を積んで宮城民医連に向け出発しました。病院被災を援助する重大な任務として緊急車両としても認定されています。

また、セントラルキッチンから供給を受けていた群馬・太田協立診療所へも、当面直接リップルが供給する事を決めました。職員はお互いに助け合い患者利用者の食事を守り抜こうと決意を固めています。

※メールによる東京民医連への情報集中は、soumu@tokyominiren.gr.jp宛にお願いします。